

社会科シラバス 高校3年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 日本史演習	3単位	第3学年	『新課程 4 ステージ演習ノート 日本史』数研出版(主要教材) 『日本史探究』実教出版(教科書) 『新詳日本史』浜松書店(図説) 『日本史探究 マイノート』 実教出版(副教材)
学習の到達目標	・資料の読み取りを通して真理を追究していこうとする姿勢や、得られた知識・技能を実社会に役立てようとする意欲を養う。〔Science〕 ・世界全体を俯瞰するグローバルな視点と地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養い、それに関する自分の考えや価値観を発信できるとともに、社会の中で自身に求められている役割を認識する。〔Global〕 ・探究心を持ち、物事を論理的にとらえ、現在世界各地で起きている問題を歴史的な視点から読み解き、よりよい解決策を導き出す。また、その解決策を実行するために、他者の意見を尊重しながら協働できる人間になる。〔Liberal Arts〕		
評価の観点	授業に前向きに取り組み、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞ 日本の歴史を学びながら、それぞれの出来事をくらべたり、複数地域のつながりや影響を探究し、自分の考えを発信することができる。項目をただ暗記するのではなく、「原因→経過→結果」という因果関係をつかむことで、社会を動かす躍動感を体感する力をつける。＜思考力・判断力・表現力＞ 諸課題の形成過程について考察したり、資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの
- D：未提出、未実施

2、学習内容及び評価方法

時期	単元	学習のねらい・到達目標
Ⅰ 学 期 中 間 ま で	日本近現代史 明治史 大正史 歴史総合分野の学習 (一部、江戸時代の復習も含む)	○問題演習を通して、既習範囲を復習する。 ○高校２年次に学習した明治史および大正史の流れを理解し、ポイントの確認を行っていく。 ○歴史総合の観点から、戦後史などを復習していく。
Ⅰ 学 期 期 末 ま で	日本近現代史 大正史 昭和史 戦後史、歴史総合分野 (江戸時代の復習も含む)	○問題演習を通して、近現代史の整理を行い、戦後史学習についても触れていく。論述問題などに取り組み、思考力、表現力、判断力の養成を促す。
2 学 期 中 間 ま で	近現代史積み残し部分の学習 古代、中世史の復習	○Ⅰ学期に触れられなかった内容について確認していく。 ○古代、中世史の問題演習を行いながら、要点整理をしていく。
2 学 期 期 末 ま で	古代史、中世史の総復習 近現代史の再確認 歴史総合視点からの近現代史学習	○古代、中世の流れを大まかに確認していく。 ○近現代にかけての流れを理解し、説明できる。 ○論述問題などに取り組み、思考力、表現力、判断力の養成を促す。

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
学習範囲を主体的に予習している。＜主体性＞	毎時間実施する小テスト
設定された課題に対する自分の考えを、他者にも読み取れるように適切に説明することができる。＜思考力・判断力・表現力＞	ロイロノートによる課題 副教材マイノート（論述問題）
歴史的な知識を身につけられている＜知識・技能＞	毎時間実施する小テスト